

2018年2月吉日

1. School Management Review 先生の仕事「仕分け」

2-3. 学校法人インタビュー 教えて、事務長先生! ～第5回 前編～

4. コミュニケーションのツボ ～第11回 適切なリーダーシップスタイル～

No.47

School Management Review

先生の仕事「仕分け」

文部科学省の2016年度の調査では、残業が月80時間以上の状態が続いているなど「過労死ライン」に達している教諭が小学校で34%、中学校で58%に上っています。月80時間を単純計算すると1日平均約3～4時間となり、トータルの勤務時間で考えれば1日10～11時間に上りまです。弊社ブログでも度々取り上げている内容なので皆さまも良くご存知の内容であると思います。

そのような長時間労働を是正しようとするために、中教審の分科会である学校における働き方改革特別部会により作成された先生の仕事の「仕分け」案、すなわち教員以外の活用を図るべき業務として以下が列举されています。

- ① 登下校に関する対応
- ② 放課後から夜間などにおける見回り、児童生徒が補導された時の対応
- ③ 学校徴収金の徴収・管理
- ④ 地域ボランティアとの連絡調整
- ⑤ 調査・統計等への回答等
- ⑥ 児童生徒の休み時間における対応
- ⑦ 校内清掃
- ⑧ 部活動
- ⑨ 給食時の対応
- ⑩ 授業準備
- ⑪ 学習評価や成績処理
- ⑫ 学校行事等の準備・運営
- ⑬ 進路指導
- ⑭ 支援が必要な児童生徒・家庭への対応

新聞などでは①②が採り上げられていますが、私自身は⑬に注目しました。報告書案の該当箇所には次のように書かれています。

「特に高等学校については、就職先が多岐にわたり、企業等の就職先の情報を踏まえた指導について、教師が必ずしもその専門性を有しているとは言い難い。このため、事務職員や民間企業経験者、キャリアカウンセラーなどの外部人材等が担当する方が効果的と考えられる場合には、高等学校における進路指導に関わる事務のうち、企業等の就職先の情報収集等について、事務職員や民間企業経験者などの外部人材等が担うべきである。」

この着眼点、単に教員の労働時間短縮のみならず、進路指導の質向上にもつながるという意味で、個人的にはとても重要だと感じます。様々な職業について、その職業を知る人にアドバイスをもらうのが子どもたちにとっても最善の進路指導になるのではないのでしょうか。

かけ声だけではなかなか実現できない働き方改革。具体的な改善行動を明示するためにも、この報告書案を活用してみてはいかがでしょうか。



教えて、事務長先生！（第5回・前編）



大好評の大型連載企画「教えて、事務長先生！」。

第5回は、関西学院千里国際キャンパスのルイス、スティーブンさんにお話を伺いました。

関西学院千里国際キャンパス
キャンパス副長
ルイス、スティーブンさん



<Profile>

関西学院千里国際キャンパス

◆主な特色

- ✓ 関西学院千里国際中等部・高等部(SIS)と関西学院大阪インターナショナルスクール(OIS)が1つのキャンパスに併存
- ✓ 「5つのリスペクト」を尊重した自由な校風
- ✓ 学期完結制、無学年制など、独自のユニークな授業システムを展開

—まずは、御校の特徴を教えてください。

一言で表現するならば、特徴だけであることが特徴ですね（笑）。関西学院千里国際中等部・高等部（以下SIS）と関西学院大阪インターナショナルスクール（以下OIS）の2つの学校が同じキャンパスにあるんです。SISはいわゆる一条校で、授業言語は日本語、年度の始まりは4月です。OISは、幼稚園の年中から高校3年生までが在籍しており、授業言語は英語、年度の始まりは8月なんです。2つの全く異なる学校を一つのキャンパスで運営しているのが本校の大きな特徴です。

—なるほど。1つのキャンパスに2つの学校があるという事は教育活動はどのようにされているのですか？

SISとOISはそれぞれ別の学校なのですが、開校以来、「two schools together」、つまり両校は一体であるという信念をもって日々の教育活動を行っています。建物や施設はもちろんですが、ビジョン・ミッション・理念をもしっかりと共有しています。

信念を形にしたものが「シェアードプログラム」なのですが、これも本校の大きな特徴の一つです。具体的にはまず、音楽、美術、体育の授業はSISとOISの生徒と一緒に学びます。また、SISで英語の上級レベルにいる生徒はOISの英語の授業を受けることができ、OISで日本語がネイティブレベルの生徒はSISの国語の授業を受けることができます。他にも、体育祭などの学校行事や部活動も一緒に行います。ですから、2つの学校があるのですが、オーバーラップしている部分も多くあるんです。

●「5つのリスペクト」

—とても特徴的な教育活動が行われているんですね！あと、自由なキャンパスという印象を受けました。

そうですね。細かな校則はなく、授業の開始と終了を告げるチャイムも鳴りません。あと、生徒指導部もないんです。ただ、「5つのリスペクト」という概念があって、生徒には常にその概念を念頭に置き、自らの判断によって正しく行動することを求めています。

—校則がないとは驚きです！その「5つのリスペクト」とは具体的にどのような概念なのですか？

「学習を大切に」、「環境を大切に」、「他の人を大切に」、「自分を大切に」、「リーダーシップを大切に」、これが「5つのリスペクト」なんです。



体育祭に向けて準備中！

SISの場合には、中学に入学すると、まず「5つのリスペクト」の授業があり、コンセプトを生徒に教えるんです。例えば、本校では携帯電話の持ち込みを禁止していませんので学校に持ってきて構いません。ただ、授業中に使用すると学習の邪魔になり、それは他人をリスペクトしていないことになります。

ですから、決まりを守るように指導するのではなく、「5つのリスペクト」をしっかりと理解させて誘導するといった感じなんです。ただ、だからといって全く問題が起こらないということはありませんので、カウンセリングセンターがあり、生徒をしっかりとバックアップしています。

● 1年間の滞在のつもりが…

—ところで、ルイスさんはいつ日本にいらっしやったのですか？

日本に来たのは1990年です。元々はイギリスで数学の教員をやっていたのですが、20代のうちに他の国に住んでみたいという思いがありました。ただ、英語圏の国だと生活上で苦勞することはほとんどありませんから、もっといろんな経験をしたいと考えていました。そんな時に新聞でJETプログラムのことを知り、面白そうだと思ったんです。当時は日本のことで知っていたのは首都が東



開放感溢れる図書館



穏やかで優しい語り口のルイスさん

京だということくらいで、日本語の勉強は全くしたことがありませんでした。それでもとりあえず応募してみたんです。

当初は日本に滞在するのは1年間だけの予定だったのですが…。

—そうだったんですか！来日されてからのことについて教えていただけませんか？

来日してから最初の5年間は大阪の府立高校に勤務していました。その後、1996年にOISに数学の教員として入職しました。

OISの教員は海外からの採用がほとんどですから、日本の学校を経験している教員がほとんどいないのはもちろん、日本語を話せる教員もほとんどいません。そんな中で、私の場合は日本の学校での勤務経験があって、日本語も話せましたから、数学以外にも事務方の仕事も担当するようになって、少しずつ学校の運営サイドの仕事にシフトしていきました。そして2006年にSISの事務長になった後、2010年にOIS事務長を兼務、2017年にキャンパス副長になりました。現在は4つの職を兼務しているんですよ。

—数学の先生から事務長になられたんですか！では、キャンパスの事務について詳しく聞かせて下さい。

(次号に続く)

前編はキャンパスの特徴やご自身の経歴についてお話しいただきましたが、優しい語り口がとても印象的でした。また、見知らぬ国で長年ご活躍されていることにはただただ脱帽です…

次回、後編は事務組織についてお伺いしています。どうぞご期待下さい！

(取材日:2017年10月5日)

学校経営に関連する情報を好評発信中！

学校経営ブログ「寝ても覚めても学校のこと。」 <http://ysconsult.hatenablog.com/>

☆12月の閲覧数No.1記事は「2018年トレンド予測」(2017年12月19日掲載)



組織の活性化を図る上で欠かすことのできないコミュニケーション。
そんなコミュニケーションをより効果的なものにするためのちょっとしたツボをご紹介します。

第11回 適切なリーダーシップスタイル

昨今、学校においては管理職のリーダーシップが強く求められるようになってきました。そこで、今回は状況に応じたリーダーシップスタイルについて見ていきたいと思います。

●4つのリーダーシップスタイル

リーダーシップとは、目標に向かって組織を引っ張る能力のことであり、部下にモチベーションを与え、やる気を引き出す能力のことを言います。

ここで大切なのが、部下の意欲(やる気)と能力(経験、知識)に応じた適切なリーダーシップスタイルを取ることです。そのスタイルは以下の4つに分類することができます。

①指示型(能力は低いが意欲は高い)

新しく入職した職員や新たな仕事に取り組んでいる人に対するリーダーシップスタイルです。手本を示しながら教えます。

②コーチ型(能力は低く、意欲も低くなっている)

特定の仕事に対してある程度の知識や経験を得たものの、難しさも知ったことで意欲が低下しているような人に対するリーダーシップスタイルです。できていることを褒めながら、具体的な改善点を示します。

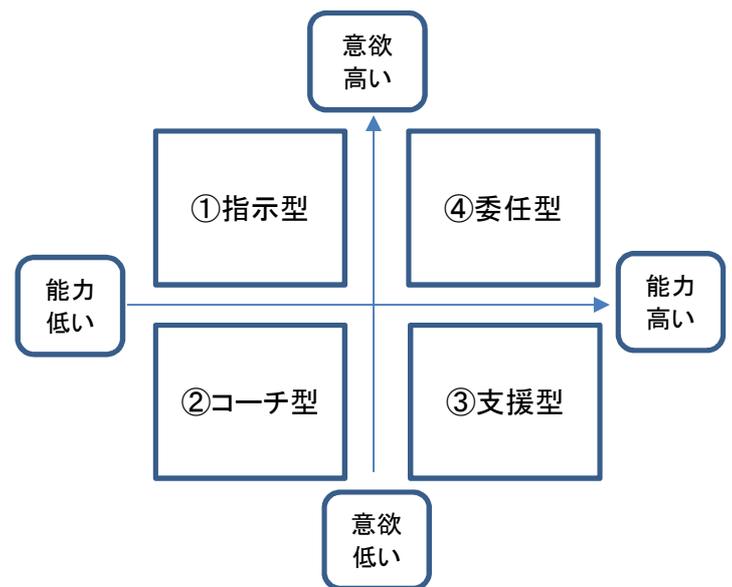
③支援型(能力は高いが、意欲は低くなっている)

特定の仕事に対して十分な知識や経験を有しているにも関わらず、意欲は低下している人に対するリーダーシップスタイルです。仕事を任せ、能力をしっかりと認めることで意欲を引き出します。

④委任型(能力も意欲も高い)

相当程度の能力と意欲を有しているため、細かいことには関与せず、定期的な報告をもらいます。

これらのリーダーシップスタイルを適切に使い分けるためには、部下の意欲と能力を見極めることと、お互いの信頼関係が重要になります。そのためにも、日頃のコミュニケーションをしっかりと心掛けてください。



未来へつなぐ、夢がある。
株式会社ワイズコンサルティング/ワイズ税理士・診断士事務所

TEL (06) 6484-7513 FAX (06) 6484-7518 E-mail: info@ysmc.co.jp
URL: <http://www.ysmc.co.jp>(会社) <http://www.ystax.jp>(事務所)
Facebookページ: <https://www.facebook.com/ysconsult>